

ミュージカル歌手

中井智彦さん 中也を語る。 P2に関連記事



赤田神社社報 第四十二号
四宮さま

赤田神社

Facebookもチェック

新型コロナウイルス感染症 流行鎮静祈願祭齋行

全国の神社では、新型コロナウイルス感染症の流行が収まるようにと、鎮静祈願祭が行われました。当社では、去る四月十一日の春祭りにあわせて齋行しました。

これまで私たちは多くの感染症や病気を克服してきた経験から、この度も先進の医学や科学で何とかなるだろうと感じていた人も多かったのではないのでしょうか。

かつて疫病の流行は、その村の暮らしや人々の命が失われることを意味しました。

祖父母から昭和の初め頃までは、ほんの些細なケガや病気でも命を奪われる不安定な生活を送っており、多くの兄弟や知人を亡くしたと聞かされたことを思い出します。

こうした時代には、人々は自然を怖れ、毎年春に豊作を祈り、秋に収穫に感謝する祭りをを行い、無病息災と地域の安寧をひたすらに祈って自然との共生を図ってきました。

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちは自然の脅威を改めて思い知らされ、家族の息災や流行

の早期終息を、思わず祈った人も多かったのではないのでしょうか。

祈願で叶うこと

祈願祭にいられた方に、神様をお願いをしたからと言って、瞬間に物事が好転し、万事思うようになるものではないと説いています。

人は、生活を営む中で様々に不安や願いを抱くものです。例えば子供が朝出かけるとき、「夕方無事に笑顔で帰ってくるだろうか…」と、ふと心配になることがあります。そして「無事に帰ってきて欲しい」と願う心がそこにはあるでしょう。

神事は、日常疎かにしがちな自分自身の心に向き合う時間でもあります。我が心を自らが大切に寄り添うことで、不安が和らぎ自暴自棄に陥らずに居られるのかもしれない。更には、神社など共通の心の拠り所を持つ

ことと共生の心が育まれ、地域の融和と安寧に繋がるものと信じられています。



氏子の息災を祈る役員